

# めぐみイエス・キリスト教会

2021年3月14日(日)第Ⅱ主日レント礼拝  
週報「通算第548号」



## 2021年標題聖句

ヨハネの福音書20章21節～22節

《イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされように、私もあなたがたを遣わします。」こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。』》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

## ◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌209「いつくしみ深き」 p. 316

【交読文】 No.5 詩篇第19篇 p. 882

【賛美Ⅱ】 新聖歌399「この身の生くるは」 p. 638

【使徒信条】 【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル賛美1「ビジョン」

【聖書朗読】 使徒の働き8章34節～40節(新約p. 250)

【礼拝説教】 《エチオピアの宦官のバプテスマ》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

## ◎本日の聖書箇所【使徒の働き8章34節～40節】

8:34 宦官はピリポに向かって言った。「お尋ねしますが、預言者はだれについてこう言っているのですか。自分についてですか。それとも、だれかほかの人についてですか。」

8:35 ピリポは口を開き、この聖書の箇所から始めて、イエスの福音を彼に伝えた。

8:36 道を進んで行くうちに、水のある場所に来たので、宦官は言った。「見て下さい。水があります。私がバプテスマを受けるのに、何か妨げがあるでしょうか。」

8:37 【本節欠如】

8:38 そして、馬車を止めるように命じた。ピリポと宦官は二人とも水の中に降りて行き、ピリポが宦官にバプテスマを授けた。

8:39 二人が水から上がって来たとき、主の霊がピリポを連れ去られた。宦官はもはやピリポを見ることはなかったが、喜びながら帰って行った。

8:40 それからピリポはアゾトに現れた。そして、すべての町を通過して福音を宣べ伝え、カイサリアに行った。

### ●ポイント1. 【本節欠如】とされる37節とは？

#### ※使徒の働き8章37節「異本による写本から」

8:37そこでピリポは言った。「もしあなたが心底から信じるならば、よいのです。」すると彼は答えて言った。「私はイエス・キリストが神の御子であると信じます。」

### ●ポイント2. ピリポが授けたバプテスマとは？

#### ※マタイの福音書28章16節～20節「ガリラヤの丘で」(新約p.64下段)

28:16 さて、十一人の弟子たちはガリラヤに行き、イエスが指示された山に登った。

28:17 そしてイエスに会って礼拝した。ただし、疑う者たちもいた。

28:18 イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「私には天においても地においても、すべての権威が与えられています。

28:19 ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、

28:20 私があなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。私は世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいます。」

■アゾト 「力・破壊力」を暗示する地名。エルサレムの西方、ガザの北北東約30キロの地中海沿岸近くにあった町。旧約ではアシュドデ、最初はアナク人の町であったが、旧約時代にはペリシテ人が居住した5大都市の一つとして知られ、アシュケロン、エクロン、ガザ、ガテと並び称される。

### ●ポイント3. なぜこの記事が「使徒の働き」に掲載されているのか？

#### ※使徒の働き21章8節～15節「カイサリアにおいて」(新約p.278下段左)

## ◎先週のメッセージの概要【エチオピアの宦官】

《ピリポによって、サマリアの町にリバイバルが起こされました。そんなことが一段落した時のことです。御使いがピリポに現われ語られたのです。「立って南へ行き、エルサレムからガザに下る道に出なさい。」ピリポはすぐに出かけます。すると一台の馬車がやって来ます。御霊が「近寄って、あの馬車と一緒に行きなさい」と語ります。するとイザヤ書を読んでいる声が聞こえてきます。「あなたは、読んでいることが分かりますか。」馬車は止まります。「導いてくれる人がいなければ、どうして分かるでしょう。」

さて、ピリポはこの人物が「エチオピアの女王カンダケの高官で、女王の全財産を管理していた宦官」であることが分かります。彼は、ギリシャ語「七十人訳聖書」を朗読していたのです。宦官がユダヤ教信仰を持った経緯は分かりませんが、申命記『辜丸のつぶれた者、陰莖を切り取られた者は、主の集会に加わってはならない』の規定によって、異邦人の庭までにしか入ることが許されず、礼拝することは許されませんでした。神殿の規定は厳しく、改宗者になるとするならば、割礼を授かる必要があります。しかしその時には宦官である事が明白になってしまうのです。

よって、彼は熱心に神様を求めながらも、神殿の中には入れず礼拝することが出来なかったのです。エチオピアから往復二千キロも費やして、神殿に入れない事から、彼は本当に落胆していたことが分かります。

ピリポは彼に、イザヤ書53章から始めて、主イエスの事を解き明かします。さて、なぜ神様がピリポをエチオピアの宦官に遣わしたのでしょうか。

エレミヤ書には、このように書き記されています。『私を呼べ。そうすれば、私はあなたに答え、あなたが知らない理解を超えた大いなる事を、あなたに告げよう。あなたがたが心を尽くして私を求めるなら、私を見つける。私はあなたがたに見出される。』と。彼は本当に熱心に神様に祈り願い求めたのです。その祈りが聞き届けられました。神様は私たちが真剣かどうかを見ておられます。真の祈りは必ず聞かれるのです。》

## ◎お知らせ

※次回礼拝は2021年3月21日(日)教会において行ないます。聖書勉強会と祈り会は、3月17日(水)各家庭において行ないます。